

《実習科目 実習科目》

科目名	教育実習（幼小）				
担当者氏名	坂口 静子、中村 哲也、笠川 武史、藤田 敏朗				
授業方法	実習	単位・必選	4単位・選択	開講年次・開講期	3年・秋期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<input type="radio"/> 実習-2 豊かな人間性の醸成 <input type="radio"/> 実習-3 コミュニケーション能力の向上 <input type="radio"/> 実習-4 発達の深い理解 <input checked="" type="radio"/> 実習-5 指導・保育の専門性				

《授業の概要》

教育実習は、学校現場において、学習活動、生徒指導及びその他の多くの活動を実際に体験する学習である。現場での教員と子どもの関わり等を観察することから始まる。実習生が謙虚に学ぼうとする姿勢が何より大事である。実習生が、模擬授業を繰り返して、実際の授業を進めることができるようになること。まとめとして行われる研究授業は、教材研究はもとより、何度も繰り返し直した指導案をもとに実施される。

《授業の到達目標》

教育実習は、本学においてこれまで学んできた教職に関する知識・技能がどれだけ現場で活用できるか、また何が不足しているのかを問い返す学習の総決算の場である。教員としての資質を高め、学校現場で求められる実践的指導力量を身に付けることを目標とする。

《成績評価の方法》

勤務状況 30%、実習校の評価 40%、教育実習ノート等報告物 30%

《テキスト》

大学で準備する「教育実習の手引き」(幼)(小)

《参考図書》

実習校で指示されたもの、大学で準備する実習ノート

《授業時間外学習》

- ・実習前には、実習校との事前打合せをていねいに行う。
（学校ボランティア活動等を通して、学校とのつながりをつくっておく。）実習前に必要とされる技能等は、入念に準備しておく。
- ・実習期間中に、指導・助言を受けたことや気付いたことは記録しておき、実習後に振り替える省察の資料とする。

《備考（教員経験の有無）》

この教科は幼稚園・小学校・中学校の教員経験に基づき構成しています。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	実習の課題と実施計画	実習校の方針と計画にそって進める。
2	観察学習	教育現場の様子を知り、理解する。
3	観察学習	担当教員と子どもとの関わりに学ぶ。
4	観察学習	同学年の授業やその他の活動を観察する。
5	観察学習	学年以外の授業の様子を観察する。
6	子ども理解	自主的活動や遊びを通して、子ども理解を進める。
7	子ども理解	授業支援を通して、子ども理解を進める。
8	参加・体験学習	学級・学年行事の企画・運営に参加する。
9	参加・体験学習	学校行事の準備や運営に参加する。
10	授業計画・授業実施	子どもの実態に応じた教材研究を進める。
11	授業計画・授業実施	教材研究をもとに指導案作成を進める)
12	研究授業実施	指導案にそって、模擬授業を実施する。
13	研究授業実施	指導案にそって、研究授業を実施する。
14	研究授業の振り返り	発問・板書・表現態度等について指導講評を受け、学びを深める。
15	まとめ	教育実習全体を振り返る。